

真面目

東邦

東邦学園広報

キャンパス

東邦学園の建学の精神は「真に信頼して事を任せうる人格の育成」であり、校訓として「真面目」を掲げています。

全国舞台で躍動した 東邦サッカー

東邦高校 サッカー部が第95回全国サッカー選手権大会に4年ぶり5回目の出場。1月2日、川崎市の等々力陸上競技場で連覇をめざす東福岡高校と対戦。0－1で惜しくも敗れ、大金星とはいきませんでした。東邦らしい「堅守速攻」のプレーが光りました。



愛知東邦大学 女子サッカー部が第25回全日本大学女子サッカー選手権大会に3年連続4回目の出場。兵庫県三木総合公園での12月24日の1回戦は八戸学院大学に3－1で勝ちましたが、ベスト8をかけた戦った26日の大阪体育大学の壁は厚く0－8で敗退しました。



特集：夢の続きは新たなステージで

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P  愛知東邦大学  東邦高等学校

vol.126

平成29年（2017年）1月20日

年頭所感



「失敗を恐れぬ」が育む「チャレンジ精神」

学園理事長・愛知東邦大学学長 榊 直樹

「細心の注意を払って」「慎重の上にも慎重に」と、よく聞きます。ミスを起こさないことを美徳とする日本社会らしい忠告です。高品質の製品を生む風土でもあります。ですから、失敗＝倒産の回数が多いほど評価されると聞いたらたまげますが、そうした人物が2017年、米大統領に就任します。世界が大混乱すると恐れられた末に、大番狂わせで勝ったトランプ氏です。不動産王と呼ばれますが、過去に4回も倒産に追い込まれ、今も借金は巨額だそうです。暴言と共にそんな男を世界の指導者に選んだのか？ 米国民は失敗を問うより、倒産のたびに跳ね返した精神、七転び八起きをより称えたようです。

昨年12月来学された中国・広東の大学の教授が、自分の大学では起業できる場所を提供し、学生が毎日そこで商売をしている、と紹介されました。日本に留学したある学生は、札幌で通信販売会社を開き、中国に日本製品を売り込んで既に数十人規模に発展させた。失敗も多いでしょうが、学生の時からの旺盛な起業精神、逞しさに感嘆します。

愛知東邦大学にも、20代で海外に会社を興した卒業生がいます。しかし中国の様子と比べると、学生は縮こまりがちです。失敗からは、多くの教訓を学べます。企業経営者から日本の指導者まで目指して「失敗しよう！」



可能性は無限大

東邦高等学校校長 佐々木 泰裕

新年あけましておめでとうございます。

2016年も生徒から多くのことを学ばせてもらいました。数ある中でも、1月の米国・ローズパレードでの吹奏楽部員、2月クエスト全国大会での代表生徒、5月姉妹校5校交流会での代表生徒、3月・8月甲子園での硬式野球部員と応援団、11月全国高校サッカー選手権愛知大会でのサッカー部員などが特に印象に残っています。

「あきらめない心、みんなの力、支える力」を間近で感じさせてもらいました。子供たちの可能性やエネルギーのすごさを再認識することのできた1年でした。

現在、教育改革の大きな波が押し寄せようとしています。キーワードは「質の保証」です。

学力の3要素「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性」をどのくらい身に付けられたかが問われます。授業の在り方や評価の仕方など授業改善やそのための学習環境の整備に努めてまいります。

本校は2017年度から普通科と美術科の学校となります。子供たちの可能性を信じて今後も信頼される学校であり続けられるよう努力してまいります。

夢の続きは新たなステージで

東邦学園から羽ばたく6人に聞きました

東邦学園では2016年度も高校、大学の様々な分野で躍動しました。東邦高校では硬式野球部が甲子園をわかせ、サッカー部も全国大会に進出したほか、空手や水泳などの競技でも全国舞台での活躍がありました。美術科からは漫画家デビューを果たす生徒も現れました。愛知東邦大学でも硬式野球部が待望の1部リーグ昇格に迫り、女子サッカー部は3年連続4回目のインカレ出場を果たしました。この春、東邦高校、愛知東邦大学を卒業する皆さんを代表して6人に、新たなステージで挑戦する夢への決意を語っていただきました。(聞き書きは法人広報企画課・中村康生)

高 校



あこがれだったプロ野球、 まずは1軍で結果出したい

中日ドラゴンズへ

藤嶋 健人さん(商業科)

3年間で3回の甲子園を体験することができましたが、強烈な印象は何といっても3年生の夏、2回戦での八戸学院光星高校に9回裏、10-9という大逆転劇で勝てたことです。応援の力って本当にすごいと思いました。僕ら商業科の生徒たちは硬式野球、サッカー、吹奏楽、バトンなど部活に打ち込む仲間が多かった。

長い歴史を誇る商業科の最後の学年で、野球だけでなくサッカーもバトンも全国大会出場を果たすことができ、素晴らしい最後を飾ることができてうれしく思っています。サッカーの愛知県大会決勝戦はドラゴンズとの仮契約があっけいけませんでした。準決勝戦は仲間たちと一緒に瑞穂スタジアムで声援を送りました。仲間たちと最後の文化祭では焼そばの模擬店を出したりして盛り上がりました。

あこがれていたプロ野球の世界に飛び込みます。プ

ロ野球は皆さんに夢を与える職業。うれしいと同時に信頼や期待を裏切らないよう、今まで以上に責任ある行動をしなければと思っています。

卒業式前の1月7日には入寮し、ドラゴンズでのプロ野球生活がスタートします。まずは1軍に上がってしっかり結果を出すことが目標です。3年生夏には、甲子園出場組のジャパンチームに加わり台湾でのアジア選手権にも参加しましたが、みんなレベルは僕より上でした。日本で一緒にいた連中の上に行けるよう頑張ります。

夢の続きはメジャーリーグのマウンドに立つことです。中学生の時、ロサンゼルス・ドジャーススタジアムで、レッドソッ



クスの上原浩治さんと田沢純一さんのピッチングを見て感動しました。プロでやるから最後まで夢を追い続けたいと思います。



プロの漫画家をめざし厳しさ覚悟で 東京で修業します

漫画家アシスタントに

辻田 大誠さん(美術科)

3年生の5月、「少年ジャンプ」(集英社)から「JUMPトレジャー新人漫画賞」の準入選(賞金50万円)に選んでいただきました。2007年から設けられている月例新人漫画賞ですが、大半が佳作(同30万円)で準入選は2年半ぶりでした。「現役高校生作家、準入選で衝撃デビュー!」と、45ページ分の作品が増刊号に掲載されました。題名は「BUDDA(ブッダ)」。現代社会に悪魔とかいろいろ出てきて、見かねて人間の世界に降りて来た仏様が主人公です。次々に悪魔に立ち向かっていきます。

小学生のころから漫画を描くのが大好きで、漫画家

にあこがれました。中学1年生の時に初めて「少年ジャンプ」に作品を送りました。返事はありませんでしたが、2回目からは編集部の方が目をつけてくれ、どんどん送るようになりました。でも、全然採用はされず、ずっと悔しい思いを続けていました。東邦高校美術科に入ったことで、デッサンとか絵についてしっかり勉強することができました。

自宅が豊田市なので通学には2時間かかりましたが、家では漫画の世界に没頭していました。次第に教室でも授業の内容は飛んでしまい、心ここにあらずの状態。卒業単位を取れるかどうかヒヤヒヤでした。美術



科の先生方には、準備室前の掲示で、「美術科3年N組 辻田大誠」の名前入りで受賞作品をPRしてもらうなど、応援していただきました。

卒業後は東京で、集英社の方の紹介で、プロの漫画家にアシスタントとして付き修業をします。アシスタ

ント収入に賞金50万円を注ぎ込んでの生活の中で、自分の作品を描いていきます。東京には同じような志を持った若者たちがたくさんおり、プロとして成功するには厳しい世界であることは自覚していますが頑張ります。



大学空手部で「形」に磨きをかけたい

山梨学院大学へ

加藤 華香(はるか)さん(普通科)

幼稚園の時、瀬戸市にあるアメリカ人が教える道場に通ったのが空手との出会いです。親は空手をやりながら英語の勉強もできると思って通わせたようです。小学4年生の時には先生がアメリカへ帰り、日本人の先生に代わりましたが、少しずつ勝てるようになり、ずっと空手を続けることになりました。

小さい時から、技を決まった順序で演武し、強さや正確さを競う形(かた)と、1対1の対戦となる組手(くみて)の両方やっています。インターハイには3回出場しました。1年生は個人形、2年生は個人形と団体組手、3年生では個人形で出て、1年生、3年生で3回戦まで進みました。東邦高校の空手道部は私たちが3年生の時、25年連続でインターハイ出場を果たしました。愛知県の高校では初めてのことで、おかげで部活動を中心に充実した高校生活を送ることができまし

た。後輩たちも空手道部の伝統を絶やさず頑張っていると思います。

空手は4年後の2020年開催の東京オリンピックで正式種目に加えられます。私が大学4年生の時の開催で



す。このチャンスにぜひ、自分もオリンピックに挑戦できたらと思い、山梨学院大学への進学を決めました。現代ビジネス学部です。空手部は教員で、世界選手権の個人形で優勝経験のある片田貴士コーチが指導されていますが、私がこの大学に行こうと決めたのは、現在4年生の田中美佐稀さんという、形では私と同じ流派の人がいたからです。田中さんは2016年の全日本学生空手道選手権大会の女子個人形で優勝しました。

東邦高校から山梨学院大学の空手部に入るのは私が初めてだと思いますが、充実した指導体制のもとで、自分の「形」に磨きをかけたいと思います。夢はもちろん東京オリンピックです。



オープンウォータースイミングで東京オリンピックに出たい

新潟医療福祉大学へ

平野 由里子さん(普通科)

幼稚園の時から自宅に近い東邦スイミングに通っていましたが、小学2年生で選手コースに上がり、東邦高校水泳部に進みました。2年生からはオープンウォータースイミング(OWS)に挑戦しています。海や川など自然の中で長距離を泳ぐ競技です。2年生で全豪選手権の日本代表に選ばれ、5kmの部で3位、3年生では9月に日本選手権に出ましたが年齢枠が17・18歳枠から20歳以下に広がったため10位でした。

OWSの歴史はまだ浅く、オリンピック種目になったのは北京オリンピック(2008年)からです。東邦高校でも私の前には誰もOWSには取り組んでいませんでした。しかし、オリンピックや国体種目になってから競技人口がどんどん増えています。3年生になって東

京オリンピックの強化選手に指定されました。

卒業後は強化合宿で指導を受けたコーチがいる新潟医療福祉大学健康科学部に進みます。海まで5分で行ける、OWSの練習環境としては日本で一番環境の整った大学だと思います。大学には寮はなく一人暮らしになります。夕食は管理栄養士がついて大学で食べられますが、朝、昼や休日の食事は自分で用意しなければなりません。料理は得意ではありませんが、頑張ります。

大学の水泳部員や、強化合宿や日本選手権で知り合ったライバルたちとも切磋琢磨しながら東京オリンピックをめざします。東邦高校のクラスメイトたちからも「東京オリンピックには応援に行くから出てね」と期待されていますから。





Uターン就職で 古里を盛り上げたい

北海道漁業協同組合連合会に

山本 明花(はるか)さん(人間学部人間健康学科)

札幌の高校から愛知東邦大学に入学するために初めて名古屋に来ました。大学では女子サッカー部で活動しましたが、おかげで沖縄を始め、全国から集まる仲間たちと出会う機会に恵まれました。それまで本州には友だちは全然いなかったのも、文化の違いなど、新鮮な体験ができてよかったなと思っています。

就職活動では「自分が誇れることをやろう」という軸足は決めていました。3月終わってから北海道に帰って就職活動をしました。地元で働いている人たちは、すごく堂々と、誇りを持って語ってくれ、心ひかれるものがありました。取りあえず何社か回ってみようというつもりでしたが、自分にはやはりここしかないという腹は固まりました。

魚が大好きな私は、札幌で暮らしていた時は1週間に5回は魚を食べていました。ところが名古屋で暮らし始めて実感したのは、スーパーに行っても好きな魚は

なくて値段が高いこと。魚は骨や内臓を取るのが面倒だから食べないという人が多いのも衝撃でした。

内定をいただいた漁連での面接では、名古屋での体験をもとに、おいしい北海道の魚や水産加工品をもっともっと全国に売り込むことが必要だと話しました。もちろん、突っ込んだ質問もありましたが、自分は言ったことは曲げない性格なので、ひるみませんでした。

女子サッカー部では「笑顔と感謝」というスローガンを掲げて取り組んできました。常に誰かに支えられているんだという

ことに感謝し、応援してくださる人々たちを笑顔にできるように、真っすぐな気持ちで取り組むことこそが愛知東邦大学がめざし

たサッカーでした。Uターンしての新生活でもこの姿勢を忘れずに頑張ります。



野球部を裏方で支え学んだ 目標を持つことの大切さ

久保田運動具店(大阪)に

山東 航(わたる)さん(経営学部地域ビジネス学科)

小学3年生の時から始めた野球でしたが、市立和歌山高校時代、監督から勧められて選手から裏方であるマネジャーに変わりました。愛知東邦大学の硬式野球部でもずっとマネジャーで、3年生からはマネジャーたちを束ねる主務となりベンチに入りました。4年生の新チームになった時、目標をしっかり定めるべきだと思い、選手たちと話し合っ、1部リーグ昇格をめざし、「歴史を創る～今日の一步が勝利への一步～」のチームスローガンを定めました。

愛知大学野球秋季リーグでは、1部リーグとの入れ替え戦にもう一步と迫るまでの戦いができたのは、目標を明確に定めた効果だと思います。もちろん、横道政男監督や萩原幹典コーチらの奔走で甲子園体験のある部員たちが増えて、戦力が着実にアップしたこともあります。

私たち4年生の硬式野球部でのスタートは横道監督

が就任した年です。社会人経験が豊富な横道監督からは野球以外にも、社会に出てから役立つかろう様々なことを教えていただきました。大学主催の就職合宿前には4年生17人を教室に集めての指導もしていただきました。おかげで自分は、目標であったスポーツ用品メーカー部門も持つ運動具店に就職することができました。

硬式野球部のマネジャーとして、もう一つ目標にしたのは、同じ強化指定クラブの女子サッカー部に負けないことでした。

女子サッカー部だけでなく、硬式野球部も頑張っていることをアピールしようと大学ホームページにはゲーム報告の記事を作り、掲載していただきました。女子サッカー部が3年

連続4回目のインカレ出場を果たしたことは嬉しくもあり悔しくもありました。でもやはりすごいですね。おめでとうございます。



文部科学大臣認定 社会人9人が「中小企業のための 若手社員活性化プログラム」を受講中です

愛知東邦大学は2016年4月から、文部科学大臣認定の「中小企業のための若手社員活性化プログラム」を開講しています。文部科学省が、社会人の学び直しを応援するため、全国の大学から申請されたプログラムの中から、「職業実践力育成プログラム」として認定しました。

1期生として受講しているのは名古屋市内を中心とする女性1人を含む社会人9人の皆さん。豊川市での勤務後に車で駆けつけている受講者もいます。2016年度の開講は11科目。火曜日、金曜日を中心に午後6時45分から8時15分までの90分講義が行われており、科目によっては土曜日など他の曜日に時間を定めて開講されています。

2016年度プログラムは愛知東邦大学専任教員である経営学部の上條憲二教授、田村豊教授、船木恵一教授と手嶋慎介准教授の4人と非常勤講師が担当しています。受講した社会人の皆さんの声では「企業で実践が求められる内容を幅広く学ぶことができた」「自分の引き出しを増やすことができた」「他業種の受講生の貴重な経験を聞くことができた」などの声が目立ちました。

プログラム責任者である経営学部国際ビジネス学科長の田村豊教授は「企業経営のこれからを担う社員の方々とお会いでき、とても刺激的な学びとなっています。学習内容も学部と比べると実践性が高く、受講生のみなさん同士での議論も広がり、みなさんの成長を楽しみにしています」と開講1年目の手ごたえと2年目への期待を語っています。

1期生の感想コメント



高柳祐一郎さん

31歳 株式会社トヨコン(豊川市)

経営者の考え方や、経営、マーケティング、管理会計、リーダーシップ、プレゼンテーションなど、企業で実践しなければならない内容を、幅広く学ぶことができました。おかげで、キャリアアップにつなげるちょうど良いきっかけになりました。



成田慈輝(よしてる)さん

42歳 株式会社プランナーズランド
(名古屋市中区)

本プログラムを受講して、改めて自分自身のキャリアを客観的に振り返ることができました。「職業実践力育成プログラム」にふさわしい科目を用意していただき、実務で応用が効く講義内容がたくさんありました。今後の業務に積極的に活用していきます。



米澤好騎さん

32歳 株式会社イープロ(名古屋市名東区)

仕事と授業の両立はハードな日々でしたが、大きな気づきと受講されている皆さんとのすばらしい出会いがありました。最初は不安でしたが、先生方や受講生の方々にサポートしていただき絆を深められ、自分の引き出しも増やすことができました。



原田俊さん

35歳 株式会社 IEC(名古屋市名東区)

他業種の受講生の方々との意見交換や、企業勤務のある教授の先生たちの講義では、実体験をベースにした授業が進むため、参考になることばかりでした。社会人になってからの大学での学びは、思った以上に新鮮でした。



高畑大輔さん

35歳 株式会社IEC(名古屋市名東区)

社会人経験があるからこそでしょうが、講義内容は実体験に当てはまるものがたくさんあります。会社での体験や経験が授業内容と重なる臨場感があります。一方通行の授業ではなく、他の受講生の皆さんの経験等も聞けるため、貴重な経験をさせていただいています。



2017年度開講案内は愛知東邦大学ホームページをご覧ください。「愛知東邦大学・職業実践力育成プログラム」で検索できます。

定着する地域と連携した学びの実践

愛知東邦大学では2016年度も様々な地域社会との連携を通した「課題解決型の学び」が実践されました。経営学部地域ビジネス学科での宮本佳範准教授(観光社会学)と手嶋慎介准教授(産学連携教育)の取り組みを紹介します。

「ハーモの旅」で豊田市内日帰りドライブコースを提案

宮本ゼミ

宮本ゼミの3年生たち6人が取り組んだのは新しい都市交通システム「Ha:mo(ハーモ)」を利用した日帰りドライブコースの提案です。ハーモとは1人乗りのミニ電気自動車「coms(コムス)」の共同利用システム。豊田市ではトヨタ自動車とともに、公共交通と連携した新たな移動手段の有効性を検証する取り組みを進めています。



提案内容を検討する宮本准教授とゼミ生たち

宮本ゼミでは、愛知淑徳大学、椋山女学園大学のゼミ学生たちとともに、豊田市などが呼びかけた「Ha:moで行くスマートシティ豊田市の『ミライ旅』づくり」での日帰りドライブコースを提案する合同プロジェクトに参加。9月20日から2泊3日、豊田市での合宿に参加し、ハーモを利用した現地試乗体験や聞き取り調査などを行いました。

3大学の取り組みは、10月26日に愛知淑徳大学で行わ

れた中間発表会で出された意見やアドバイスをもとに最終プランしてまとめられました。各大学が2プランずつ提案した、ハーモを利用して豊田市内観光を楽しむ6プランは、11月中旬からウェブサイト(「Ha:mo TOYOTA 豊田市」)にアップされ、料金を払って実車体験してもらう「販売」もスタートしました。

宮本准教授のゼミ生たちがまとめたのはプランC「歴史と自然のまち松平を巡る」(4時間、3000円)とプランD「豊田においでん〜自然と産業をスマートに巡る旅」(6時間、5000円)。3大学の計6プランは、実際の利用者数(販売実績)やウェブサイト閲覧数なども合わせた500点満点で順位を競い、2月に最終審査結果が発表されます。



ハーモの実車体験をするゼミ生たち(12月9日)

宮本准教授は「愛知東邦大学のプランは、学生たちのしっかりした事前調査もあり充実した内容。応援して下さる皆さんのネットワークでハーモの利用体験数、ウェブ検索数が増えればうれしいです」と期待を寄せています。

東山動植物園の魅力づくり提案をめざして

手嶋ゼミ

手嶋ゼミでは2年生12人が、「総合演習」科目として東山動植物園の魅力づくりに取り組んでいます。手嶋ゼミでは2015年度も4年生7人が、3年生から継続して「専門演習」で、「東山動植物園の魅力づくり」に取り組み、同園を管理する東山総合公園事務所で「植物園の魅力づくり」について成果を発表しました。2年生たちの「総合演習」は専門科目に入る前のいわばトレーニング科目です。

学生たちは4月以降、ウェブサイトや資料での東山動植物園に関する基礎データの収集、同園でのフィールド調査、アイデア、



東山動植物園でのフィールド調査

意見発表、再度のフィールド調査を行ってきました。先輩のゼミ生たちと同様に1月24日に東山総合公園事務所を訪れ、職員たちに、自分たちがまとめた、東山動植物園の魅力づくりに関する考えを発表し聞いてもらいます。

12月9日の「総合演習」の授業では、手嶋准教授が紹介した、東山動植物園が2014年度に実施した来園者アンケート結果を分析。来園者の44%が名古屋市民、91%が東海3県からの来場者という地元での安定した人気を、さらに全国からの来園者増にもつなげる魅力アップの方法で、大詰めの意見交換を行いました。

「全国的に低い名古屋の魅力アップは東山動植物園の知名度アップにかかっている」「東山動物園にはイケメンゴリラのシャバーニだけでなく、人のような鳴き声をするテナガザルもすごい人気。動物園の人気者をどんどん発掘すべき」「交通広告の効果な利用やSNSでの全国発信に力を入れたら」——。検討を重ねてきたアイデアや意見をどのようにまとめて発表するか。手嶋准教授は「学生たちが苦勞して調べ、まとめた提案も、東山動植物園のプロ担当者たちから見れば物足りないかも知れません。しかし、これからの専門分野での学びのスタートには必ず役立たずは」と話しています。



手嶋准教授の授業を受けるゼミたち

東邦生が多彩に躍動 「2016年度 学園祭」

生徒会正顧問 古田 知子

今年度の体育祭は9月21日に行われました。天候が下り坂となったために午後から中止となり、大変残念ながら午後の種目や東邦伝統の1年生全員による花笠を実施することができませんでした。しかし、例年になく多く観戦にみえた父母の皆さんの声援に応え、応援合戦では各団が個性あふれるエネルギーに満ちた応援を披露し、体育祭を盛り上げました。

文化祭は9月23、24日に開催されました。「LIVE in TOHO～無関心から関心へ～」をテーマに、身近なことから広く社会の様々な問題に関心を持ち、自分のこととして考えようと呼びかけました。

実行委員会、各クラス・クラブでは夏休みから準備・練習を重ね、東邦生の生き活きとしたエネルギーが感じられた2日間でした。また、東邦伝統の「東邦きしめん」を始めとするPTA企画や同窓会企画なども大にぎわいでした。

2日目の交流の広場で行われた文化祭本部企画は「世界の18歳」と題し、18歳選挙権が施行された今、外国の選挙制度や海外の若者たちの関心について考え、日本でも若い世代が社会のことにもっと関心をもっていこうと呼びかける企画でした。

また、生徒会では4月の熊本地震を受け、全校で呼びかけた募金を特に被害の大きかった御船町にボランティア支援を兼ねて1学期に直接届けてきました。こうした取り組みの流れで、文化祭生徒会企画として、東日本大震災や熊本地震の被災者に思いを馳せ、名古屋で地震が起こったら自分たちには何ができるかを考えるムービーを作成し、上映しました。

会場が熱気であふれた「未来の芸術家たち展」

美術科教科主任 杉浦 見奈子

「未来の芸術家たち展」は、今回で24回目を迎えることができました。11月22日から27日まで、愛知県美術館J1・J2ギャラリーで開催された第24回未来の芸術家たち展(美術科22期生・商業科グラフィックデザインコース16期生卒業制作展)は、1230人という多くの皆様にご来場いただきました。また、新たな試みとして会期中にポートフォリオ展や美術科の歩み、進路実績等のパネル展示も行いました。

年間行事

(2016年度)

1月……マラソン大会
2月……推薦入学試験
一般入学試験
予餞会
卒業式

3月……学年末考査
終業式

模擬店やバザーの売り上げは、ユニセフ、東日本大震災支援、熊本地震支援、鳥取地震支援、文化財保護・芸術研究助成財団、愛知私学奨学支援資金財団、戦争と平和の資料館ピースあいちなどへの寄付にあてられます。また、沖縄ひめゆり祈念資料館へは、2年生の修学旅行団が募金を届けています。



茶華道部

展示企画



和太鼓合同企画



体育祭応援合戦



さらに、11月26日には、ギャラリートークを実施し、会場が人の熱気であふれるほど大盛況となる企画になりました。生徒にとって卒業制作は高校生活の集大成であり、これからの制作の指標になります。この展示会をきっかけに、新たなステージへと踏み出してくれることを願ってやみません。

ご協力、ご観覧いただいた教職員の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様、誠にありがとうございました。



2年生修学旅行を終えて

校務部 水谷 光博

11月9日から3泊4日で4団に分かれて、沖縄へ修学旅行に行ってきました。結団式では生徒団長が「人の話を聞く、遅刻をしない、体調に気をつける、楽しむ」ことを目標に掲げました。

初日から2日目にかけては、ひめゆりの塔・平和祈念資料館、沖縄県平和祈念公園(平和祈念堂・平和の礎)を回り、生徒会の平和カンパ金と各団の千羽鶴の奉納、「平和の誓い」など平和集会を立派に成功させました。

3日目から4日目にかけては、美ら海水族館やエイサーなど沖縄の自然や文化を大いに楽しみました。バスガイド・運転手さんをはじめ、ホテルの方々、添乗員さんなどいろいろな方にお世話になりました。

解団式で生徒団長が「(家族への感謝を込めて)きょうは、ただいまと言って家に帰ってください」と締め

くくってくれたのがとても印象に残りました。看護師さんから届いた御礼の手紙を紹介し報告を終えます。

「先日は、東邦高等学校第3団の修学旅行にご一緒させていただきありがとうございました。最終日に素晴らしいサプライズに声も出ず、ただ感激で涙、涙でした。さっと受け入れてくださる生徒さん達、くったくのない笑顔、きちんとした挨拶、本当に楽しい修学旅行の帯同でした。そして素晴らしい先生方とお仕事ありがとうございました。本当にありがとうございました。愛知県は寒いと聞いております。どうぞお体をいたわりご自愛なさってください。乱筆にて失礼します。草々」(沖縄介護センター看護師 東江陽子)



県大会にリベンジします

卓球部顧問 岩澤 大介

卓球部は現在、男子13人、女子10人(うち3年生1人)、顧問3人で活動をしています。昨年度までは団体戦を組



むのがギリギリの状態でした。そんな卓球部が春の総体名北予選において女子が団体で決定戦に出場、秋の新人戦名北予選においては、男子が団体で4位となり県大会出場を果たしました。

卓球はプレー技術が重要であることはもちろん、それ以上にメンタルで勝負が決まるスポーツです。この秋に出場した県大会ではそのことを再認識させられました。どんな相手でも、普段の力を発揮できなければ勝ちはずかめません。

今回は好抽選のおかげもあって県大会に出場できたに過ぎません。次の春はこの課題をクリアして県大会にリベンジします。応援よろしくをお願いします。

春高バレー県大会で過去最高のベスト8

男子バレーボール部顧問 稲葉 益夫

東邦バレー部は、秋の全日本高校選手権(春高バレー)予選で、名北大会を優勝し、続く県大会ではベ

スト8という成績を残すことができました。3年生がフル参加できるこの大会で好結果を出すことは今まで難しく、過去最高の成績となりました。

過去ほとんど勝てなかった岡崎工業、名城大附と勝ち進み、準々決勝では全



国4強の星城と対戦し完敗しました。しかし生徒自らが自主的に練習を組み立て、自らの力で勝ち抜いて成果を残せたことには大きな満足感も覚えます。

今回の他8強校は、名電、栄徳、豊橋中央、豊川、大同などすべて推薦で選手を集めている私学のみです。このような中で、勝ち抜けたことは大きな自信となっています。たくさんの関係者の応援も大きな力となりました。心から感謝申し上げます。

夢まだ半ば…これからの剣道部

剣道部顧問 松永 早苗

「東海大会出場」。新人戦に向けて、部員たちが掲げたこの目標が剣道場に張り出されました。昨年の新人戦・今年のインターハイ予選ともに地区予選で敗れ、県大会への出場もかなわぬまま結成された新チームです。「何とか県大会に」と考えていましたが、部員たちの視線はさらにその先に向けられており、頼もしく感じました。



個人戦地区予選では、3人が県大会出場を決め、幸先よいスタートを切ることができました。さらに、修学旅行に参加

せず臨んだ女子団体予選でも、県大会出場を達成しました。

県大会では、滝高校に競り勝ちながらも常滑高校に惜敗し、東海大会出場はかないませんでしたが、次の目標に向かうひたむきな姿が見られることを期待しています。

感謝の気持ちとともに前進続けたい

バントワリング部顧問 木庭 信耶

日ごろは多くの方々から多大なるご支援を賜り、部員、顧問一同お礼を申し上げます。今年度は硬式野球

部の甲子園大会出場やサッカー部の全国大会出場というめざましい活躍もあり、活動の場を数多く提供していただきました。

それとともに部員たちは日々の練習に全身全霊を傾け取り組み、第42回バントワリング東海大会ボンボン編成において金賞を受賞いたしました。そして、全国大会に向けてさらなる技能の向上に努めています。

今年の演技の演目は「甲斐の虎」であり、迫りくる虎の俊敏かつ猛々しい様をどう伝えるかを試行錯誤しております。

佐野仁美コーチをはじめとした多くの卒業生のご指導、保護者の方々の支えに対する感謝の気



持ちを忘れることなく、前進を続けていきたいと考えています。

全国高等学校サッカー選手権大会に4年ぶり5回目出場決定

サッカー部顧問 青山 大輔

今年のチームは、地力はあるものの新人戦、総体予選ともベスト8に終わり、プリンスリーグ東海でもなかなか勝てない状況が続きました。しかし、リーグ戦の後半は初戦以外負け知らずで、その勢いで選手権予選に臨みました。2回戦、対愛知黎明戦は4-0。3回戦、対大同大大同戦は0-0(PK 5-4)。準々決勝、対熱田戦は4-0。準決勝、対岡崎

城西戦は準々決勝で中京大中京に快勝した岡崎城西を0-0(PK 4-1)で制して決勝へ。

決勝対戦した刈谷は、総体で敗戦した相手でしたが1-0で勝利。4年ぶり5回目の選手権出場を勝ち取りました。

ピッチに立つ選手はもちろん、スタンドからの大声援の後押しもあつての勝利です。ありがとうございました。選手権初戦は1月2日。対戦相手は前年度優勝校の東福岡高校です。応援よろしく願い致します。



「一夜城」のテーマに思いを込めた 第52回和丘祭

学生会代表 松井 健斗(人間学部人間健康学科4年)

第52回目の愛知東邦大学和丘祭。今年のテーマは「一夜城」でした。「一夜城」というテーマには込められたストーリーがあります。「昔々、名東区には一晩で築かれた幻の城があったそうだ。その城は2日間しか現れず、その時だけ盛大な祭りが開かれたそうだ。祭りに来た人、住んでいる人が、この2日間だけ何もかもを忘れて馬鹿になり、大いに祭りを楽しんで一生に残る思い出をつくったそうだ」——というものです。

このテーマには僕たちの想いも込めました。「この一夜城には、学生会の実行委員や歴代の先輩方、大学関係者や地域の方々など全ての方々の想いを繋ぎ、そして、この大学祭が大学と地域を繋げ、今後の名東区平和が丘の発展に繋がってほしい」というものです。

今年の大学祭は、学内で活躍している部活やサークルはもちろん、他大学からのゲストにも多数出演して

いただきました。各出演者ともそれぞれの色が存分に
出され、とても魅力的な時間が2日間にわたり、繰り
広げられました。昨年から取り組んでいる「平和が丘
秋まつり」との連携企画も開催し、学生と地域が共に
手を取り合い、名東区平和が丘の地域を盛り上げまし
た。2日間とも本学の学生だけでなく、他大学の学生
や地域からも、老若男女年齢を問わず来場していただ
き、あらゆる壁を超えた笑顔があふれ、とてもにぎや
かな楽しい光景が生まれました。

今、この時しかない時間。過ぎて行く日々。今、こ
の瞬間の全てが思い出に変わって行きます。そんな
日々の思い出の一つとして、今年の和丘祭が「ふと思
い出せば笑顔になる思い出」となっていたら嬉しく思
います。私は、この大学祭で、学生会の仲間たちと共
に、素敵な時間を過ごしました。4年間過ごしてきた
学生会の集大成として、最後の恩返しとして、一生忘
れることのない良い夢を見させていただきました。あ
りがとうございました！



「For the team」の大切さ

男子サッカー部監督 伊藤 数馬

平素より男子サッカー部の活動にご支援いただきあ
りがとうございます。「東海学生サッカーリーグ1部昇
格」を目標に挑んだ2016年度でしたが、7位という不
本意な結果に終わり、目標を達成することができませ
んでした。目標こそ達成することはできませんでしたが「サッカーはチームスポーツである」という大切な



ことに気づくこと
ができた1年だっ
たと思います。思い
通りにならない苦
しい時こそチーム
としてのまとまり

が重要であり「For the team」の精神が求められます。
自己優先な考えや習慣は苦しい状況になればなるほど
誤魔化すことができません。チームのために走ること
ができる、体を投げ出すことができる選手の育成をし
ていきたいと考えています。今期の悔しい結果を真摯
に受けとめ、2017年度こそは1部昇格をご報告できる
よう精進していきたいと思っておりますので変わらぬ
ご支援よろしく願いいたします。

年間行事

(2016年度)

- | | |
|---|--|
| 1月…後期講義終了、後期末試験 | 3月…卒業証書授与式
学内企業展
春期休暇
(2/6～3/31)
入学前セミナー |
| 2月…後期末試験
就職合宿、海外スタディツアー
卒業研究発表会
総合野外活動実習 | |

音楽の原動力「愛」を忘れず 2017年も邁進

吹奏楽団監督 白谷 峰人

2016年は、なんとといっても「ローズパレード2016」の出場が印象深いです。東邦高校吹奏楽部の現役生と卒業生、そして愛知東邦大学吹奏楽団。約2週間のアメリカ遠征は高校生にも大学生にも音楽の奥深さと人間の温かみ、エンターテインメントの楽しさや難しさ、様々な感情と知識を私たちに与えてくれました。

そんな貴重な体験を糧に2016年度の活動は前年度にも増して積極的に取り組みました。技術的にはまだまだ未熟ではあっても音楽の原動力である「愛」を忘れず、人の心を揺さぶり人の心をつかみ、そして社会に

でてからも胸を張ってスポットライトを浴びることができる、愛知東邦大学吹奏楽団だからこそ勝ち得るものを目指し、2017年も邁進していきます。いつも応援ありがとうございます。がんばります。



悔しさをバネにインカレの舞台へ ～「感謝」と「笑顔」を届ける～

人間学部4年 吉原 知里

2016年度の目標は、①全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)ベスト8②皇后杯出場③東海リーグ1部残留④愛知県リーグ1部優勝の4つであり、チームスローガンに「一丸」を掲げ、日々練習に取り組んできました。



この度、4勝1敗の成績で、東海地区第2位代表としてインカレ本戦への出場を決めることができました。

ですが、ここまでの道のりは、決して平坦ではありませんでした。今年度の愛知県選手権決勝では、昨年と同じ聖カピタニオ高校との対戦となりました。0-0のままPK戦となり、10-11で負けてしまい、連覇を逃すとともに、皇后杯出場の目標も達成できなくなりました。

東海リーグ、愛知県リーグでも思うような結果を残すことができず、チームとして「勝ちきる力」「圧倒力」が大きな課題となりました。インカレ予選では、その課題を全てクリアできたわけではありませんが、チーム一丸となって、これまでの敗戦を糧に戦いました。



私たちが目指す目標は、インカレベスト8です。インカレ本戦への出場は通過点に過ぎません。インカレ本戦の舞台では、この1年間、苦しみながら目標に向かって進んできた力を大きな原動力として、愛知東邦大学の誇りを胸に、一戦でも多く戦えるように全力で挑みます。たくさんの方々に支えられ、応援されて今の私達があります。「感謝」の心を忘れずに、チーム一丸となって「笑顔」でサッカーを楽しみ、目標に向かって進んでいきたいと思います。応援よろしく願いたします。



学生の防犯ボランティア活動と ボランティア団体協定について

非常勤講師 長坂 康代

今年度前期開講の全学共通科目「東邦プロジェクトB」の受講学生17人は、大学周辺での清掃活動を行いました。当初は大学名入りの既存のジャンパーを着て活動しましたが、年中使えるビブス(ベスト状のゼッケン)のデザインを学生自ら考案し、外部委託して制作しました。



防犯にまで活動を広げ、7月には、本学で名古屋市による「防犯講座」を開催し、警察官OBからパトロール実施を学ぶ機会も得ました。この告知ポスターも学



生が作って、参加学生を募りました。後期は、自主組織の学生会に引継ぎ、学内の地域連携センターの協力のもと、清掃防犯活動を続けています。

12月5日、本学は、名古屋市と「ボランティア団体協定」を締結しました。市内の大学としては、2番目の協定締結になります。これほど意義ある活動の当面の課題は、学生の積極的な参加奨励ですが、東邦プロジェクトBの受講学生が、活動のチラシを作成して配布し、組織づくりを始めました。この学生の自主的な動きには、大いに期待できます。そして、この協定を通して、多くの学生が地域社会に関心を持ち、地域の方々とともに清掃と防犯を兼ねた活動ができるような取り組みに発展していくことを願っています。

春季リーグこそ1部昇格の 「歴史」を創りたい

硬式野球部 又吉 翔也(教育学部子ども発達学科2年)

愛知大学野球秋季リーグ戦2部Aリーグを7勝3敗で優勝することができ、創部以来初の2部リーグ優勝決定戦に進出することができました。優勝決定戦の相手は昨年まで1部リーグだった愛知大学でした。結果は1勝2敗で、残念ながら1部リーグ入替戦まで進むことはできませんでした。しかし、2部Aリーグ初優勝という結果を残すことができ、新たに掲げたス



ローガン通り「歴史を創る」ことができました。これからもまた新たな歴史を創りたいと思います。

秋季リーグ戦が終わってすぐに新チームに入れ替わ



りました。新チームのスローガンは前シーズン同様「歴史を創る」です。目標に向かって菖蒲怜主将のもと、日々練習を頑張っています。3月には沖縄キャンプに1週間行きます。沖縄まで行くからには野球だけのことを考えて1日も無駄にしないように一生懸命練習してきます。

春季リーグ戦での1部昇格、1部で勝ち続けるために一人ひとりの野球に対する意識を変え、謙虚に、素直な姿勢で野球に取り組みたいと思います。

たくさんの人に応援されていることをチームの力に変えて、春季リーグ戦では何としても1部リーグに上がるために全力で頑張ります。今後とも硬式野球部への温かいご支援・ご声援をよろしくお願いします。

空襲直前の航空機工場で配られた「神風」鉢巻 前年には東邦商業でも予科練志願決議

太平洋戦争末期の1944年12月13日、三菱重工名古屋発動機製作所大幸工場で、勤労働員中の東邦商業学校生18人と教員2人が米軍B29爆撃機による空襲の犠牲となりました。日本が多くの航空機を失い劣勢に追い込まれていく中、大幸工場では空襲の10日ほど前、「神風」と書き込まれた鉢巻が配られました。航空機増産を鼓舞するために軍需省から配られた鉢巻で、その1枚が空襲を生き延びた卒業生によって保管されていました。一方、前年の1943年7月には生徒たちがこぞって予科練を志願する動きが東邦商業も含めた各校で相次ぎました。鉢巻を保管していた伊藤幸一さん(86)(21回生)と、「死の志願」とも言われた予科練志願の体験を持つ後藤重三郎さん(91)(17回生)らの証言をもとに、東邦商業で戦争が緊迫していった時代を追いました。(法人広報企画課・中村康生)

野球部にあこがれ東邦商業に

鉢巻を保管していた伊藤幸一さんは硬式野球部にあこがれて1943年に東邦商業学校(以下東邦商業)に入学しました。甲子園での中等学校野球大会は、1941年春の選抜で東邦商業が3度目の優勝を飾ったのを最後に中止されていましたが、野球の人気は続いていました。「入学者の大半が野球部に入りたくて東邦を選んだのではと思うほどだった」。伊藤さんは名古屋市昭和区の自宅で73年前の入学時を振り返りました。

「入部希望者たちの多くが自分よりは実力が上だろう」と判断した伊藤さんは入部をあきらめ、吹奏楽が盛んな音楽部に入りました。しかし、その硬式野球部も、「敵性スポーツ」と断じられたため、中京、享栄、愛

知一中など他の強豪校とともに解散に追い込まれてきました。さらに同年の1943年10月には男子商業学校の工業学校への転換が閣議決定され、東邦商業でも商業科の募集が停止されました。伊藤さんら21回生は最後の東邦商業生となってしまったのです。

愛知一中から飛び火した予科練志願決議

伊藤さんが入学した1943年は、米軍による日本本土空襲の危機が叫ばれ出した年でもありました。足りない飛行兵を補うために全国中等学校に甲種飛行予科練習生(予科練)を始めとした陸海軍への志願依頼が割り当てられ、埋まらない定員に学校へは軍からの圧力が強まっていきました。こうした中、7月5日、愛知一中(現在の県立旭丘高校)では、志願への発奮を求め



三菱重工空襲犠牲者「慰霊の日」に参列した東邦商業学校卒業生や遺族ら（12月5日）

る校長や配属将校たちに煽られるように、熱くなった生徒五百六十余人がこぞって志願するという事態が起きました。

「愛知一中の快挙 全四、五年生空へ志願」など新聞記事に煽られるように、岡崎中学校でも総決起大会が開かれ566人が志願。そして志願の一斉決議は東邦商業にも飛び火したのです。

後藤重三郎さん（東京都杉並区）が5年生の時でした。「私たちの組は進学クラス呼ばれていて、愛知一中のニュースが新聞に大きく載った日の休み時間、『俺たちもやろう』と一人が言い出したら、あっという間に



「神風」鉢巻を大切に保管していた伊藤さん（名古屋市昭和区の自宅で）



予科練志願決議について語る後藤さん（東京都杉並区で）

クラス全員が賛成した。これをきっかけに5年生の他のクラスや4年生、3年生たちからも志願者が続出ていきました」。後藤さんは東邦商業で、自分を含め、生徒たちがなだれうって志願を決めていった当時を語りました。

しかし、生徒たちの志願に反対する親も多く、教師たちの間でも意見は分かれました。志願を貫こうとする者と取り止める者との間で広がっていく溝。志願しても検査に落ち、途方にくれる者。学校には重苦しい時が流れました。

『東邦学園五十年史』に収録されている1943年11月13日報告の1942年度後期「東邦商業学校在籍生徒数、甲種飛行兵採用者調査」によると、1342人の在籍生徒のうち、甲種飛行兵受検有資格者（15～20歳）の3年以上は776人。受検者は107人で合格者は33人でした。

父親に先立たれ、母子家庭で育った後藤さんは母親の猛反対にあいました。父親代わりだった伯父に叱り飛ばされ、「学校の仲間たちみんなとの約束だから」と言っても全く聞き入れられず、志願に必要な判は母親によって隠されてしまったのです。相談した担任からは、「お国のために役立つ方法はいくらでもある。思い直した生徒もかなりいる」と説得されました。一緒に志願した仲間を裏切る後ろめたさを感じながら後藤さんは志願を断念せざるを得ませんでした。

配られた神風鉢巻

伊藤さんら1943年入学の21回生がまともに勉強できたのは1年生の時だけでした。2年生となった1944年秋からは全校生が一人残らず各地の兵器工場に動員されるという総動員体制になったのです。配属された三菱重工名古屋発動機製作所大幸工場は現在の大曽根からナゴヤドーム（名古屋市東区）がある矢田に広がる飛

行機エンジンを製造する大工場でした。

伊藤さんは2週間の訓練で作業工程をたたき込まれ、昼間専門の作業に組み込まれました。「手先が器用だった」という伊藤さんは、エンジン製造工程の最後の方を担当。自動車ならボルトとナットで接続させていくところを、細い穴に針金を通してひねりながら接続していく作業を受け持たされました。

『東邦学園五十年史』によると、大幸工場には1944年5月段階で東邦商業から4、5年生422人が動員されていましたが、秋には2、3年生も加わりました。伊藤さんによると、12月に入ったころ、「これを頭に巻いて仕事をするように」と鉢巻きが配られました。12月13日の空襲の10日ほど前のことです。

鉢巻には日の丸をはさんだ「神風」、その下に小さな文字で「航空兵器総局長官 遠藤三郎謹著」と印字されていました。油まみれの作業だったこともあり、配られた鉢巻の多くは手ぬぐいとして使われて汚れ散逸していきました。空襲の時、伊藤さんは20人近い仲間と高さが身長ほどもない急造の防空壕に逃げ込み、恐怖の時を耐え、生き延びることができました。伊藤さんは鉢巻とは別に手ぬぐいを用意して使っていたこともあり、鉢巻は汚れることなく戦後も残り、保管されていました。

神風鉢巻と特攻隊

鉢巻に書き込まれた「遠藤三郎」は軍需省航空兵器総局長官の遠藤三郎陸軍中将(1893~1984)のことです。軍需省は1943年11月に発足、航空兵器総局はその中枢でした。

名古屋空襲に詳しい「戦争と平和の資料館ピースあいち」(名古屋市名東区)の金子力さんによると、日本本土攻撃のため、米軍は1944年7月にサイパン島、8月にグアム島とテナン島を占領して飛行場を建設。



三菱重工名古屋発動機製作所の作業（『愛知県史資料編30』より）

このマリアナ諸島にそろった900機を超すB29により、日本空襲が開始されていきました。

追い詰められていた日本海軍が打ち出したのは戦闘機に爆弾を積んで敵空母に体当たりする「神風(しんぷう)特攻隊突入作戦」でした。遠藤は1944年11月11日の日記に「比島、木田大佐より神風部隊勇士の必死的攻撃直前、抛出せる献金千六百余円送り来る。手紙の内容を読み勇士等の高潔なる心情に泣かされる」と書きました。出撃を前に特攻隊員たちは「どうせ死ぬのだからもう金はいらない」と紙幣や銀貨、銅貨を残しました。木田達彦司令は、手帳の紙を1枚破り、「この経緯と特攻隊員のこの気持ちを全国民に知らせてほしい」と書き記し、献金と一緒にハンカチで包み、前の所属長でもあった遠藤あてに送ったのです。

受け取った遠藤は、赤い日の丸の左右に「神風」と藍で染めた、鉢巻として使える手ぬぐい百数十万本を作り、飛行機生産工場で働く人たちに配りました。伊藤さんらが「鉢巻」として受け取ったのは遠藤が日記に記した約20日後のことでした。陸海軍航空機の6割以上を生産、飛行機製造工場が集中する名古屋は空襲の標的となりました。その第一陣が12月13日、70機のB29による三菱重工名古屋発動機製作所大幸工場への空爆だったのです。

母校の生徒たちに見せたい

1943年9月29日。予科練壮行出発式が愛知県庁南広場で開かれました。制服制帽にゲートルを巻いた入隊者たちは「軍艦行進曲」を奏でる東邦商業のプラスバンド(音楽部)を先頭に行進を開始し、桜通から名古屋駅に向かいました。毎日新聞に掲載された写真には、先頭でチューバを吹く19回生の樺山(もみやま)幹男さん(故人)ら東邦商業の仲間たちの姿がありました。

伊藤さんも予科練を送りだす行進で演奏し、音楽部の仲間を写そうと、楽器を置いて前に走り、写真を撮ったことがありました。しかし、すぐに憲兵が走ってきて、「いくら学校の仲間でも予科練が写っているはだめだ」と、フィルムを抜かれてしまいました。

伊藤さんは海軍予科練ではなく陸軍に志願しましたが体が弱かったため受かりませんでした。卒業後は郵政省、電電公社時代も含めてNTT日本に勤務しました。

戦後70年を前にした2014年、名古屋市博物館から、大切に保管していた「神風の鉢巻」を提供してほしいという申し出がありました。しかし、伊藤さんはまず

は、「慰霊の日」を設けている東邦高校の生徒たちに見てもらいたいと思い、額装し当時の長沼均俊校長(現在は常務理事)を訪れ、生徒たちに見てもらいました。長沼理事は、「何としてもこれを歴史の証言として残したいという伊藤さんの思いが伝わってきました」と言います。

「神風鉢巻」の額には13歳当時の伊藤さんの写真と、「昭和十九年(1944)十二月十三日午後一時三十分頃、学徒動員として三菱重工業名古屋発動機製作所(砂田橋)第二工場組立で神風鉢巻使用。米軍B29の大編成隊名古屋市中初の空襲(爆撃)を受ける。当時中学二年生十三歳。東邦商業学校第二十一回卒業 伊藤幸一」の書き込みが添えられています



愛知県庁から名古屋駅に行進する予科練入隊者たちを先導する東邦商業音楽部 (『東邦学園創立75周年記念誌・真面目の系譜』より)

記憶を次世代に残したい

後藤さんら17回生は1943年12月に繰り上げ卒業。翌年、東京にあった電波兵器技術練成所に入学しましたが、1945年1月、19歳で陸軍に徴兵され、氷点下30度の満州(中国東北部)で過酷な訓練を受けました。戦後は東京で中学校教員、大学講師を務めました。

後藤さんは2012年夏、自分も呼びかけ人の一人となったウェブサイト「戦場体験史料館・電子版」に1943年7月に東邦商業で起きた予科練一斉志願の経過を含めた戦争体験を投稿しました。戦争の惨状や戦時下の中等学校がどのような状況にあったかを知る人がどんどん減っていくなかで、残る記憶を次世代に伝えておきたいという思いからでした。

「当時、実業学校は、在籍生徒の1割しか上級学校の受験が出来なかった。そのため、進学できるのか不安が広がっていた。東邦商業は野球や剣道、プラスバンドが全国レベルにあったが、この年は全国大会が行われず、その分を発散したいという感じもあった」最終的に予科練を何人が受けて何人が合格、何人が戦死

したのかも分からない。空席が目立つクラスもあったが、この頃は勤労働員でバラバラの所に行き、他の募集もたくさんあったので、クラスメートでも全体像を把握できなかった」戦後、予科練に行った者と一緒に、『無事だったか』と声をかけたら不快そうに顔を他に向け、返事もなかった。成績も大変優秀な生徒だったが、卑怯だという気持ちはあると思うし、今さら何を言っているんだと思ったのだろう。そう思われても仕方がないと思うが、自分もその後、軍隊に行ってつらい教育を受けたから、それを話せたら分かり合えたと思う」(要旨を抜粋)



学ぶことができる環境に感謝を

伊藤 幸一さん

終戦になって、形のうえでは1945年10月1日から授業は再開されましたが、使う教科書も本もなかった。イモ掘りとかそんなことばかりで、本当にみじめでした。社会に出て学力がないのは本当に悲しいことです。電電公社に就職はできたものの、できることといえばソロバンを使った電話料金の計算ぐらいだった。若い皆さんは、学ぶことができる環境ににいるということに感謝し、かけがえのない時間を大切にしてほしいと思います。

教え子たちを思い続けた恩師たちに感謝

後藤 重三郎さん

予科練志願を思いとどまるよう説得してくれた担任は英語の酒井佐一先生です。アメリカの大学で学ばれ、この戦争は勝てないという見通しがあったのでしょうか。特高や憲兵に知られたら大変ことになっていたと思います。3年生の時には勤労働員で郊外の高射砲陣地建設に出かけた時、土砂崩れで一人が生き埋めになり死亡しました。担任の坂倉謙三先生が狂気のように手をあげ、必死になって教え子を助けようする姿は今も忘れません。恩師たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

〈参考文献〉

『将軍の遺言～遠藤三郎日記』(宮武剛、毎日新聞社)、『特攻の真意～大西瀧治郎和平へのメッセージ』(神立尚紀、文芸春秋)、『積乱雲の彼方に～愛知一中予科練総決起事件の記録』(江藤千秋、法政大学出版局)

「フレンズ・TOHO」は、みなさんをお待ちしています！

2016年6月に開催された「フレンズ・TOHO」総会記念講演会で、シンクロ競技元オリンピック選手の石黒由美子さんのお話をお聞きました。「夢をあきらめない！」と題された講演は、心に響く「もう一度お聞きしたい」と思える講演でした。

小学校2年生の時、交通事故に遭って大けがをされたにもかかわらず、その後「絶対にシンクロの選手になってオリンピックに出る」との強い思いをもってお母様と二人三脚、夢をかなえられたというお話は、考えさせられることの多いお話でした。もっとたくさんの人に聞いてもらいたい、心の底から思っています。

今後も、皆さんの心に残るような、こうした企画を充実させていきたいと考えております。ぜひ、ご参加ください。

「フレンズ・TOHO」では様々な催しや交流の場を設けています。会員さんはもちろんですが、会員さんでない方にも、是非、参加していただきたいと思っています。

興味のある方、参加してみたい方は、下記までご連絡ください。お待ちしております。



講演する石黒由美子さん

フレンズ・TOHO事務局
TEL: 052-782-1954
Mail: friends@aichi-toho.ac.jp

東邦会「東邦の和」52号特集であの感動が再び！

高校同窓会 東邦会事務局

東邦会(東邦商業学校・東邦中学校・東邦高等学校の卒業生で組織)では、毎年10月に同窓会報「東邦の和」を発刊し、全ての卒業生と学園関係者にお配りしています。

第52号には、ビックニュースとなった吹奏楽部のローズパレード出場と、硬式野球部の春夏連続甲子園出場を特集記事として掲載。あの感動が紙面上でさらに蘇ったとの声をいただいています。社会で活躍する同窓生特集には、甲子園優勝投手・山田喜久夫さんの現在や、各界で活躍されているOB・OGを紹介。在校生やPTAの皆さんからも大変好評で、文字通り「東邦の和」がつながっていくようです。

同窓会事務局には若干予備を備えております。ご連絡をいただければお届けいたします。



「邦友会」設立50年記念総会と祝賀会開催

邦友会事務局 稲垣ゆかり

2016年、大学同窓会(邦友会)は、設立50年を迎えました。それを記念して9月4日(日)、記念総会と祝賀会を大学で開催。卒業生、教職員、来賓を含め約200人の皆様とお祝いすることができ、会長をはじめ役員一同大変喜んでおります。

昨年度から愛知県私立大学同窓会連合会に加入したため、来賓として連合会の皆様を招待。同日「大学見学会」(連合会行事)を開催。総会



講演する増田孝教授

に続いて人間学部の増田孝教授を講師に迎えて「ミニ講演会」を開催し、その後キャンパスツアー、祝賀会と続きました。子ども発達学科の学生に子どもの世話を、職員の方は受付やキャンパス案内役をしていただきました。こうしてご参加いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

今回は短大1回生の卒業生の方から幅広くご参加いただきました。残念だったのは、大学卒業の参加者が少なかったことです。次回は大学卒業生の参加目指し、企画したいと思います。同窓会総会は5年ごとに開催しており、次の開催は2021年の予定です。

－学生が自主運営するゲストハウス－ 「TOHO Learning House」

夢にアクティブな寮生と語ろう!!

このゲストハウスは、愛知東邦大学の学生寮「TOHO Learning House」の中に併設されています。ここでは、夢をかなえるための「実現力」を育むプログラム



が行われており、寮に住みながら、学生自らの力でゲストハウスの運営を行っています。この

ような実践する学び舎としてのプログラムは、日本初の取り組みです。地域連携をベースとしたイベント企画や経営などに挑戦している寮生と触れ合うことが、このゲストハウスの何よりの醍醐味ではないでしょうか。是非、ご利用ください。

ゲストハウスに関する詳細はウェブサイトをご覧ください。「TOHO Learning House」で検索できます。

<http://toholearninghouse.wixsite.com/guesthouse>

なお、2016年8月にオープンしたばかりのため、対象とする宿泊客の方を当面の間、学園関係者、地域関係者、学校関係者(生徒・学生含む)または、その紹介者に限定して運営をしています。

等々力に響いた「We are TOHO」 今年こそインカレ・ベスト8の笑顔を

第95回全国高校サッカー選手権大会で東邦高校が昨年の王者・東福岡高校に挑んだ川崎市の等々力陸上競技場。川崎フロンターレのホームスタジアムでも

ある2万7000人が収容できるスタンドには「We are TOHO」「戦闘開始」の東邦マーチがこだましました。

一方、兵庫県三木市の総合公園で開催された第25回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)に挑んだ女子サッカー部。悲願のベスト8進出はなりませんでした。2017年の新たな挑戦に期待しましょう



愛知東邦大学 コミュニティカレッジ

～2017 年度前期講座～

地域に開かれたキャンパスとして、本学の特徴を活かした講座を開講します。
地域の皆様との知的交流を通して、「学びのコミュニティ」を創出します。

近畿日本ツーリスト株式会社 寄附講座 テーマ別で楽しむおとな旅 -国内編-

いい宿でゆっくり過ごしたい、美味しい食事が食べたい、現地の観光スポットを巡りたいなどそれぞれ旅の目的は違います。旅のプロがテーマごとにおススメの宿、観光場所、穴場スポットなどを紹介します。

◆講 師：安齋みどり

生涯スポーツとしてのニュースポーツ 「クロリティー」のすすめ

生涯スポーツのツールとして開発されたニュースポーツ「スポーツ輪投げ・クロリティー」を活用して、積極的なスポーツライフを楽しむ機会を提供します。

◆講 師：石川幸生(人間学部教授)

親子かけっこ教室

短時間でできる練習と、簡単なポイントの紹介を行います。子どもは速く走るコツをつかむことを、一緒に参加する保護者の方には帰宅後に子どもを教えることができるようになることを目指します。

◆講 師：木野村嘉則(人間学部助教授)

目指せ!! チーム日本!

チームスポーツはもとより、個人スポーツにおいても、勝利を目指す上でチーム力は重要な要因です。チームについて、チームのメンバーとともに考え、チーム力の向上を目指すための講座です。

◆講 師：長谷川望(人間学部准教授)

入門ショッパー・マーケティング

来店客に自社製品を購入してもらうにはどうしたらいいのでしょうか? 購買者に焦点をあてたマーケティングの理論と実践について解説し、実践的なコミュニケーション開発のノウハウを学びます。

◆講 師：船木恵一(経営学部教授)

企業の底力を確実にアップさせる ブランディングの最新ノウハウ

ブランディングとは、これからの時代にどんな存在であるべきかというコンセプトを定めることから始まります。ブランドを高めるためのコツをわかりやすく解説します。

◆講 師：上條憲二(経営学部教授)

英文多読のはじめかた

「英文多読」とは、やさしい英語の本を辞書をひかずにたくさん読む(だけ)という学習法です。どんな人でも自分の英語力に合わせて始められます。

◆講 師：竹越美奈子(経営学部准教授)

教育学部は、
名東区子育て支援
ネットワーク連絡会と
連携した活動を実施中!

講座の詳細、お申し込みは3月6日(月)以降、本学の公式 Web ページでご確認ください。

東邦学園同窓生入試のお知らせ

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校卒業生の子または愛知東邦大学在学学生・卒業生のきょうだいに対して入試を実施します。

特典としては愛知東邦大学の入試金が半額になります。

一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

【Ⅲ期 出願期間】 2017年1月18日(水)～2月15日(水)

【お 問 合 せ】 愛知東邦大学 入試広報課 TEL: 052-782-1600